

無垢フローリングとの付き合い方

無垢フローリングと上手に付き合うための、ポイントをまとめました。魅力的な表情を保つためには、無垢木材への心配りが大切です。長くお付き合いいただくために、下記をご一読ください。

水分・食べこぼし

- 水分は、毛羽立ちや白濁、カビ、ひび割れの原因となります。
- 日常的な水拭きでのお手入れは避け、観葉植物・加湿器・水槽などのお取り扱いには十分ご注意ください。
- 濡れたタオルなど水気を多く含むものを無垢フローリングの上に放置すると不具合が生じる場合があります。
- 結露によって生じた水滴や、洗濯物の室内干しによる湿気などによって不具合が生じる場合があります。
- 醤油・コーヒー・ワインなど色の濃い液体や、ジュース・くだもの・洗剤など酸性度やアルカリ度の高い液体及び固体はシミや変色、色落ちの原因となり得ます。こぼしてしまった際は、素早く拭き取りを行ってください。

直射日光

- 長時間にわたり直射日光が当たると、変色やひび割れが生じる場合があります。日差しが強い場所では、カーテンやブラインドなどで日光を遮ってください。

家具・家電

- 重たい家具やキャスター付きの家具は、へコミや傷の原因となります。ピアノなど重たいものを置く場合は、フローリングとの間に板を敷くなどして荷重を分散させてください。脚の裏側にフェルトなどの緩衝材を貼っていただくと、傷がつきにくくなります。
- 無垢フローリングの上に冷蔵庫を直接置くと、熱風が原因でひび割れが生じる場合があります。
- 無垢フローリングの上に直接アイロンを置くと、加熱による不具合が生じる場合があります。

暖房器具

- 無垢フローリングに直接温風が当たると、表面の割れや、隣り合う無垢フローリングとの間に大きな隙間が生じる場合があります。
- ホットカーペットやコタツを使用すると、表面の割れや隙間が生じる場合があります。やむを得ずご使用になる場合は、無垢フローリングと暖房器具の間に遮熱シートを設置してください。

塗装

- 無垢フローリングに、既に施されているものとは異なる市販の塗料を使用された場合、変色などの不具合が生じる可能性があります。基本的には、既に塗布されている塗料と同一のものを継続してお使いください。
- 塗料を過度に塗ると、ベタつきの原因となります。ご使用の際は、少量を塗り伸ばすように塗装してください。
- 塗料が染み込んだウエス(布切れ)を放置すると、まれに自然発火する恐れがあります。ご使用後は、水に濡らして処分してください。

薬品・金属製品

- ヘアカラーリング剤・パーマ液・靴墨は変色する場合があります。ご使用の際は、無垢フローリングに薬剤を落とさないようご注意ください。
- 化学雑巾やモップをご使用になると、変色する場合があります。
- 鉄クギや金属製品を無垢フローリングの上に置いたままにすると、黒色に変色する場合があります。金属製のものを無垢フローリングの上に置く場合は、接触面にフェルトなどを貼り、直接触れないようにしてください。
- ノロウイルスなどの殺菌・消毒に次亜塩素酸ナトリウムを水で希釈したタイプの消毒液を使用する場合は、布などに染み込ませて拭き取りを行ってください。毛羽立ちやシミの原因となる場合がありますが、正しくメンテナンスをすることにより、補修することができます。詳しくは、P13をご参照ください。

※薬品などをご使用になる際は、必ず使用上の注意をよく読み、目立たないところで一度試してからお使いください。

敷きもの

- カーペットやラグなどを無垢フローリングの上に敷いたままにすると、カビやダニが発生する可能性があります。ご使用になる場合は、できるだけ通気性の良い薄手のものをお選びください。
- 床暖房をご使用の場合には、無垢フローリングの上にカーペットを敷かないようにしてください。放熱を妨げ、ひび割れなどの原因となります。
- 床への敷きものは陽の光や空気を遮断し、無垢木材の特徴である経年変化を妨げ、そこに色差が生じます。ご使用になる場合は、できるだけ陽の光や空気になじませて、経年変化に注意してください。

その他

- 車椅子を使用されますと、無垢フローリングに傷が付くことがあります。特に屋外から室内へ入られる際には、砂やゴミを落としてから入るようにしてください。
- ペットの爪によって傷が生じる場合があります。また、ペットの排泄物は無垢フローリングを傷める原因となり得ます。長時間放置せず、できるだけ早く拭き取るようにしてください。